

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1293 号	氏名	坂元 暁
審査担当者	主査	野村 政壽	(印)
	副主査	探水 圭	(印)
	副主査	山下 裕史朗	(印)
<p>主論文題目 : Low positive titer of anti-differentiation-associated gene 5 antibody is not associated with a poor long-term outcome of interstitial lung disease in patients with dermatomyositis.</p> <p>(抗 MDA5 抗体低力価陽性は皮膚筋炎合併肺障害の長期予後に影響しない)</p>			

審査結果の要旨 (意見)

抗 MDA5 抗体は皮膚筋炎合併間質性肺障害の診断に有用なバイオマーカーとして知られている。なかでも急速進行性肺障害症例では、早期から強力な免疫抑制療法が必要であることから、抗 MDA5 抗体測定の臨床的重要性は大きい。本研究は、急性期を乗り越えた慢性期皮膚筋炎合併間質性肺障害患者における抗 MDA5 抗体の意義を明らかにしたものであり、当該疾患の慢性期治療法に対して、臨床的に極めて重要な示唆を与えるものである。また、MDA5 は RNA ウイルスに対する免疫応答に関与する分子であることから、皮膚筋炎合併間質性肺障害の発症機序に関して興味を持たれ、今後の研究展開が期待される。

論文要旨

抗 MDA5 抗体(Anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody)は予後不良な転帰をたどる皮膚筋炎合併急速進行性肺障害(rapidly progressive interstitial lung disease :RP-ILD)に関係する。我々は抗 MDA5 抗体価が皮膚筋炎合併間質性肺炎患者の長期予後に影響するかを解析した。後方視的に皮膚筋炎合併間質性肺炎患者 36 人の保存血清を用いて ELISA 法によって抗 MDA5 抗体価を測定した。その上で臨床データ、抗 MDA5 抗体価およびフェリチンにおける相関を解析した。14 例(39%)の患者が抗 MDA5 抗体陽性であった。そのうち急性期死亡に至った 7 例の抗 MDA5 抗体価とフェリチン値が生存群に比較して高値であった。胸部 CT において‘分類不能型’であること、および RP-ILD であることが予後診断のマーカーとなった。抗 MDA5 抗体価およびフェリチン値に対して(各々カットオフ値 100IU/ml、899ng/ml)急性期死亡の予後解析したところ、感度(86%、83%)、特異度(97%、100%)と高い相関が得られた。死亡 7 例はすべて RP-ILD を合併しており、内 6 例は抗 MDA5 抗体価が 100IU/ml 以上であった。一方、生存 7 例は 2 例(29%)のみ RP-ILD を合併しており、全例抗 MDA5 抗体価が 100IU/ml 未満であった。また生存群である抗 MDA5 低力価陽性者の 2 年間の肺機能の変化に相関は見られなかった。血清中における高力価抗 MDA5 抗体陽性急速進行性 ILD 患者での急性期死亡に相関があるが、低力価抗 MDA5 抗体陽性患者の慢性期の変化は抗 MDA5 抗体陰性群と同等であった。